

坂戸の赤トンボ



坂戸市では現在赤トンボの仲間が全部で7種類確認されています。赤トンボといえば澄んだ秋空に群れで飛ぶ姿を思い浮かべますが、夏から秋まで長い期間観察できます。また、アキアカネのように、いろいろな場所でたくさんの個体がみられる種類もいれば、ノシメトンボ、コノシメトンボのように観察場所も限られ、個体数が少ない種類もあります。

それでは、市内で見られる赤トンボたちを紹介していきます。

①アキアカネ



交尾（左がオス、右がメス）



未成熟のオス

無農薬の田んぼでは、初夏に一斉に羽化するたくさんの個体を観察できます。羽化した個体はしばらくするといなくなってしまいます。アキアカネは羽化後に山間地に移動する習性があるのです。そして秋になると戻ってきますが、多くの場合いきなり群れで現れるのでびっくりします。坂戸では最も普通に見られる赤トンボです。

②ナツアカネ

初夏から秋まで、長い期間観察できます。アキアカネに似ていますが、胸部の黒条が四角く断ち切れます。（アキアカネは先端が尖ります。）



成熟したオスはたオスは頭から腹部まで真っ赤に色づきます。



未成熟のオス

メスは腹部が赤くなるタイプと赤くならないタイプがあります。



③マユタテアカネ

オスメスともに顔面に眉状斑があるのが特徴です。オスは成熟すると腹部が赤くなります。早い個体は8月の終わりくらいから色づいています。坂戸ではアキアカネが秋に戻るまでは、マユタテアカネが一番多いようです。



メスは羽の先端に黒色斑があるタイプと、オスと同様ないタイプがいます。まれにオスのように腹部が赤くなる個体もいます。



④ミヤマアカネ



羽に特徴的な帯状斑があるので、他の種と区別がつきます。写真の上がオスで下がメスです。オスは成熟すると頭部から腹部、羽の縁紋まで赤くなります。メスは橙褐色の個体が多いです。名前にミヤマとついていますが、平地でも普通に見られます。坂戸では高麗川沿いで観察できます。



羽化したてのオス



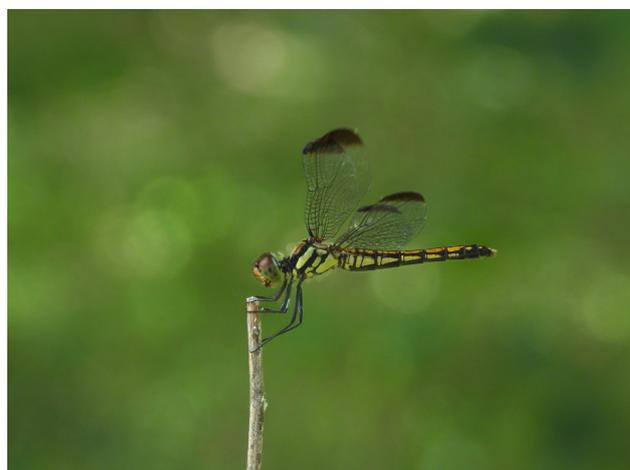
晩秋の早朝、朝露に濡れたオス

⑤リスアカネ



羽の先端に褐色斑があるのが特徴です。名前にリスとありますが、スイスのトンボ学者リスに由来するもので、動物のリスとは関係ありません。

坂戸で観察できるのは城山、浅羽ビオトープくらいで、個体数もそれほど多くはありません。



左がオス、右がメス

⑥ノシメトンボ



赤トンボの仲間はオスが成熟すると赤くなる種が多いですが、ノシメトンボはオスも赤くなりません。成熟しても写真のように暗い赤褐色になる程度です。



オス、メスともに他の赤トンボより少し大きめです。羽の先端の黒色斑が特徴です。市内では城山と浅羽ビオトープで観察できますが、数は少ないようです。

⑦コノシメトンボ



オスは成熟すると頭から腹部まで赤く色づきます。ノシメトンボ同様羽の先端に黒色斑があります。胸部の中央の黒条が後ろの黒条とつながっているのが特徴です。このトンボも市内ではあまり見られない種ですが、まれに環境学館いずみの近くにあられます。



左がメス、右が未成熟のオスです。

幼虫のすみか

トンボの幼虫は水中で生活しますが、水があればどこでもいいというわけではなく、種類によってすみ分けています。流れのある川にいる種もあれば池や水田など流れのないところにいる種もあり、赤トンボの仲間は池や水田、緩やかな水路などで見つかります。